一般財団法人日本不動産研究所㉚

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

白石市＝片倉小十郎の街

アクションゲームが火付け役

〝歴女〟が探訪する城下町

白石市は、宮城県南部に位置し、東京から東北新幹線で約2時間、宮城蔵王の玄関口である。市内には、小原温泉・鎌先温泉など歴史ある名湯があり、名所・旧跡も多く点在している。古くから奥羽と関東を結ぶ要所として多くの人々が行き交い、街中には今も掘割（水路）や商家の蔵が残り、城下町らしい趣がみられる。

白石市街ほぼ中央、小高い丘にたつ堂々たる天守が街のシンボル、白石城である。1602年に仙台城の支城として片倉小十郎景綱が入城してから11代・約260年にわたり片倉氏が居城した。

片倉小十郎景綱は仙台藩祖・伊達政宗を支えた重臣である。通称である「小十郎」の名は代々の当主に受け継がれ、二代の重長は勇猛果敢な性格で「鬼小十郎」とも呼ばれた。1615年の大坂夏の陣では伊達隊の先鋒を務め、真田幸村と激闘を繰り広げ、鬼小十郎の名を天下に馳せた。大阪城落城前夜、死を覚悟した真田幸村は、敵将重長を天下の武将と見込み娘の阿梅（おつめ）を密かに託した、それ程の男であった。

白石城の最上階にある高欄からは白石の街並みが一望できる

脈々と受け継がれてきた趣深い場所が残る市内

歴史ファンが注目

さて、男気や忠義のあるエピソードが数多く残る片倉小十郎、以前は全国的な知名度はそれ程高くはなかったが、「戦国BASARA」という片倉小十郎も登場する戦国時代を舞台にしたアクションゲームが人気の高まりのきっかけとなり、「歴女」と呼ばれる女性の歴史ファンが白石市へ歴史探訪するようになった。

ここで白石市の経済に目を向けると、人口と就業者数の減少が進む中、市内総生産は減少しており、地価もおおむね緩やかな下落傾向にある。今後は本格的な人口減少社会の到来に伴い、このような状況が加速度的に進行することが懸念されている。白石市には、白石城と片倉小十郎等の歴史・文化だけでなく、材木岩や南蔵王等の自然、蔵王酒造、温麺や弥治郎こけし等の特産物、温泉、更にはスキー場など多様で魅力的な地域資源に恵まれており、このような豊富な地域資源を活用し、集客力を高め、いかに交流人口の拡大に結びつけるかが大きな課題となっている。

駅前ショップ「小十郎プラザ」では歴史グッズを販売している

合戦シーンを再現

そこで、白石市では伝統文化の継承と地域活性化の波及効果を期待し、白石城や片倉小十郎公を生かしたPR活動に取り組んでいる。その一つ、大阪夏の陣における片倉軍・真田軍の合戦シーンを再現した「鬼小十郎まつり」は今年で第11回目を迎え、舞台である白石城には市内外から6000人が詰めかけた。他にも、先述の「戦国BASARA」とのタイアップ企画によるラッピングバスの運行や、各種関連グッズの販売など、様々な取り組みがされている。JR東北本線「白石駅」前には「小十郎プラザ」という歴史グッズを扱うショップがあるのだが、筆者が訪れた際にも歴女と思われる女性たちが買い物を楽しんでおり、聞けば千葉県からのリピーターとのこと。

このように片倉小十郎を活用したPRが盛んだが、今後はPRの枠を超えた白石城を基幹としたまちづくりに発展させることによって、歴史資源から地場産品や観光資源への波及効果を期待する。激動の時代を生きた片倉小十郎は今なお、白石の未来への推進力として生きている。（東北支社、不動産鑑定士・戸張有）

キャラクターの片倉小十郎でラッピングされた市民バス